

## 令和2年度第2回総合教育会議

- 1 日 時 令和2年12月16日（水曜日）  
午後3時00分～午後4時40分
- 2 場 所 富士見市立中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘  
教育長 山口 武士  
委員 小野寺 巧  
委員 蓑輪 菊雄  
委員 渡部 利枝子  
委員 深井 美千代
- 4 署名委員 教育長 山口 武士  
委員 深井 美千代
- 5 説明職員 教育部長 林 みどり  
教育部長 齊藤 宏  
教育政策課長 鈴木 誠  
学校教育課長 石井 勝博  
生涯学習課長 深迫 国宏
- 6 事務局職員 総務部長 古屋 勝敏  
秘書広報課長 森園 幸則  
秘書広報課主任 仲澤 大気
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事
  - (1) 家庭学習応援事業について  
中学3年生向けの受験対策講座について
  - (2) コロナ禍での学校における子どもたちの様子について
  - (3) 富士見市教育大綱見直しの検討について
  - (4) その他

## ○星野市長

皆さん。こんにちは。委員の皆様方には、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より本市の教育の充実・発展のため、大変なご尽力を賜っておりますこと、心から感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、全国的に感染拡大が続いております。本市におきましても、11月に入ってから感染者が急増しており、11月のひと月で95名、12月は、これまで67名の感染者が確認され、昨日の12月15日時点における市内感染者数の合計は236名となっております。

市としては、これまでも、新型コロナウイルス感染症緊急支援事業として、教育分野においては、授業の補助や補修学習を行う学習支援員の増員や教職員の負担軽減を図るためのスクール・サポート・スタッフの配置など、独自の支援策に取り組んでまいりました。

さらに、12月5日より、本日の議題の一つにもさせていただきましたが、中学3年生を対象に委託講師による受験対策講座を開始いたしました。コロナ禍において、先生が児童・生徒と向き合う時間を確保し、良好な教育環境を作るためには、民間活力の活用など、様々な視点から学校教育への支援が必要であると感じております。

また、平成29年7月から家庭での学習習慣をつけることを目的に、民間企業に委託し、学習支援を行う家庭学習応援事業を実施しております。私も、9月に鶴瀬公民館を訪れた際に、ちょうど小学生のサタデースクールが開催されていたので、少しだけ見学をさせていただきましたが、イキイキと楽しそうに受講されている様子を拝見しました。本事業は、スタートして4年を迎えていることから、本日の総合教育会議では、所管課からの報告を踏まえ、委員の皆様から、事業に対しての評価や今後の事業展開などのご意見を賜りたいと考えております。概ね、子どもたち・保護者の方からのアンケート調査によると、家庭に帰ってからの机に向かう時間が増えた、新たな友達ができたなど、学習意欲に通じる事柄が増えているというご意見をいただいております。

また、昨日閉会いたしました12月議会において、本市の20年後の理想の未来を「誰もが自分らしく、充実した日々を送ること」と定めた第6次基本構想と、理想の未来を実現するための政策等をまとめた第1期基本計画が可決されました。それらの計画に全庁をあげてしっかり取り組むため、行政組織条例の改正についても、あわせて可決をいただきました。新しい総合計画と組織体制が令和3年4月1日からスタートします。総合教育会議におきましても、秘書広報課で所管しておりましたが、来年4月から政策企画課が所管となることも併せてご報告させていただきます。教育行政におきましても、新しい計画と体制のもと、児童生徒が夢や希望を抱き、一人ひとりが輝けるよう、学校教育の充実に取り組んでまいりますので、引き続き、委員の皆様には、ご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びにあたり、寒さも厳しくなっております。委員の皆様におかれましては、健康にご留意いただくとともに、本日の会議が有意義なものとなることを心から期待いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

## ○森園秘書広報課長

ありがとうございました。本日は、説明員として、林教育部長、齊藤教育部長、鈴木教育政策課長、そして、今回の議題が「家庭学習応援事業について」ということで、所管課長であります深迫生涯学習課長が、そして、中学3年生向けの受験対策講座の所管として、石井学校教育課長が出席しておりますので、よろしく願いいたします。それでは、今後の進行につきましては、星野市長をお願いいたします。

## ○星野市長

それでは、会議に移らせていただきます。初めに、本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員に、山口教育長と深井委員を指名いたしますので、よろしく願いいた

します。

さて、本日は、議事の(1)として、まず「家庭学習応援事業について」と「中学3年生向けの受験対策講座について」議論してまいりたいと思います。後ほど担当課長から説明をいただきますが、家庭学習応援事業につきましても、これまでの積み重ねてきた経験などを、何か学校と連携させるなどして新たな可能性を見いだせないかということで、意見交換をさせていただきたいと思います。

また、中学3年生向けの受験対策講座も、もともと家庭学習応援事業のノウハウから生み出した事業でございました。こうした次の展開につながるようなことができないだろうかと考えております。事務局・所管課からの事業説明後に、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。まず、平成29年度から実施しております「家庭学習応援事業」について、事業概要、検証結果等を、深迫生涯学習課長より説明をお願いいたします。

### ○深迫生涯学習課長

それでは、資料①をご覧ください。先ほど、お話しがありましたように、今年が4年目となる事業でございます。1ページ目が事業概要ということで、令和元年度の例をお示ししております。説明の流れといたしましては、令和元年までの3年間を振り返りまして、その検証結果から、課題を見出し、そして、今後の方向性を説明させていただければと思います。

2ページ目をご覧ください。まずは、小学生のサタデーサークルについてです。3年間を振り返りますと、受講者数は、表の太枠に書いてあるとおり、針ヶ谷の会場はやや少ない状況ではありますが、3年間をとおして、全体としては60名前後の定員をキープしてきた状況でございます。

続きまして、成果でございますが、3つ掲げております。本事業のメインテーマである家庭学習の定着については、事業前と事業後のアンケート結果の比較によると、30分以上の家庭学習時間が、3か年ともかなり高い伸びを記録しております。特に令和元年度については、30パーセント未満から80パーセントを超えたということで、成果がでてきていると認識しているところでございます。

また、家庭学習の定着が根付いてきているということで、算数・国語ともにテストの結果も伸びております。これは、7月と3月の効果測定の結果をお示ししております。教育委員の皆様には例年お示ししているところでございますが、学力の向上ということでも、効果が出ているのではないかと考えております。

このように成績が伸びてきていることから、80パーセントを超える満足度となっているところでございます。令和元年度については、新型コロナウイルスの影響により、最後のひと月は活動ができなかったことから、満足度が少し低下したのかと考えております。

この3年を振り返りまして、課題を3点掲げております。まず1点目は、保護者からのアンケートの中で、6年生でも実施してほしいというご意見を非常に多くいただいております。2点目は、議会等でもご指摘をいただいておりますが、費用対効果というところで、この費用が事業に対して高いのではないかとといったご意見をいただいております。3点目が、先ほどの受講者数のところで触れましたが、会場ごとに申込者数のばらつきがあるといったことです。そういった課題を踏まえまして、新提案ということで、令和3年度から事業を見直していく方向でございます。

3ページをご覧ください。令和3年度における事業の見直しということで、3点変更を考えております。まず1点目、対象学年を5年生のみとしていましたが、6年生も対象とするといったことを考えております。理由としては、開設を希望する声に応えるといったことや、5年生で受講した子が、引き続き6年生でも経過を追って、見ていくことができるといったこと、また、6年生でのつまづきに対応できるといったことなどが挙げられます。これまでは、4年生くらいから非常に勉強が難しくなるといったところで、5年生を対象としておりましたが、学校の勉強が今後5年生にウエイトがくるというような指導内容になっていることを参考にさせていただきまして、6年生も継続実施することでカバーできるだろうと考えております。2点目が、対象科目をこれまで算数・国語としていたものを、算数1科

目にするとといったこと。これに関しましては、現状の予算規模を維持するといった面もありますが、受講者の数が5年生・6年生の2学年の皆さんを迎えることとなりますので、受講者数を増加が見込まれるといったところです。令和元年度よりイブニングスクールについては、1教科のみの受講を可能としていますが、1教科でも成果が出ている点から、小学生のサタデースクールについても、家庭学習の定着といったことを目的としていますので、1教科に絞っても問題ないと考えているところでございます。

3点目が、募集定員の見直しということで、総数自体は60名という定員を維持したまま、各会場の近隣の小学校の生徒数から、割り振りを変更するといったことで考えております。

小学校長から見直し（案）についてもご意見を伺ったところ、1点目としては、1科目にするデメリットよりも、人数が増えるメリットの方が大きく、多くの子を見てもらいたいというご意見をいただきました。2点目としては、つまずきの解消と学力の効果がより分かりやすい算数でよいとのことでございます。3点目としては、2年目（6年生）の開設により、引き続き見てもらうことで、1年目の効果を切らさず、中学に進むことができ、そのまま中学に送り出すことができるという点が良いとのこと。ただ一点、国語については、まったく無くすのではなく、付録的にでも、漢字練習などの宿題を取り入れてもらえれば、より良いといったご意見もいただいております。

見直しの効果でございますが、「保護者のニーズに応えられる」「より多くの児童の参加が見込まれる」「継続受講により、切れ目なく中学の学習に取り掛かることができる」といった点や、費用対効果についても、1人あたり、3万5千円台になるといった効果が見いだされるものと考えております。

続きまして、中学生のイブニングスクールについてですが、中学生の受講者数につきましては、平成29年・平成30年と定員割れが続いておりました。そのことを受け、令和元年度では、少しマイナーチェンジをし、1教科での受講を可といたしました。その結果、受講者数が増え、70名まで人数を増やすことができました。成果については、小学生同様、家庭学習の定着、そこから学力の向上、満足度も90パーセントを超えている状況です。また、中学生については、参加者の第1志望の高校への合格率が高い数字をキープしております。

3年間を振り返り、課題として1点目は、定員割れ・定員オーバー、令和元年度は抽選にもなったこともありますので、この辺の対策は必要であると考えております。2点目は学力の向上とともに、もう少し受験対策に重きを置いていくことも検討が必要であり、3点目は、やはり費用対効果の見直しも必要だと考えております。課題を踏まえまして、中学生については、令和3年度にすぐ大きく変えるということではなく、令和2年度の残された時間の中で、授業の検証をしまいたします。新型コロナウイルスの影響により、スタートが遅れ、コマ数が減っております。これがどの程度成果をあげられるのかということを検証してまいりたいと思います。また、ニーズの調査ということで、中学生に対し、どのくらい塾へ通っているかということや、家庭学習応援事業の必要性、意向調査を行いたいと考えております。その人数によっては、今の公民館会場では人数を増やすことはなかなか困難ですので、学校を使った事業展開も考えております。その場合は、学校や関係者の皆様からご意見を伺いながら進めてまいります。

そして最後に、先進自治体視察ということで、すでに学校会場で行っている自治体や、学力向上・受験対策ということで行っている自治体もあることから、そういったところの様子を伺いたいと考えております。直接出向いていきたいところではございますが、コロナの影響により、今年度中に出向くのは難しいため、書面によって質問させていただくなどの工夫をし、早ければ令和3年度の実施計画の中で、中学生のイブニングスクールについても変更の提案ができればと考えております。

## ○星野市長

ありがとうございました。引き続き、新型コロナウイルスの市独自支援策として、12月から実施している「中学3年生向けの受験対策講座」について、事業概要、現在の状況などを、石井学校教育課長より説明をお願いいたします。

### ○石井学校教育課長

よろしくお願いたします。それでは、お配りした資料②をご覧ください。先ほど、市長からもありましたように、中学3年生向けの受験対策講座の目的としては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、臨時休業期間の学習支援として、専門講師から受験に向けた指導を受けることにより、基礎を確実に身に付け、学力の向上を目指すということでございます。日程としましては、12月5日から開始し、2月13日までの公立高校の受験に合わせてのスケジュールとなっております。特に、入試において重要な基礎的な問題を確実に取るということを中心としたなかで、全10回を予定しております。対象となる生徒は、県立高校を第1希望として、勉強の仕方がわからず、授業が難しいと感じる子、英語・数学の2教科を受講し、継続して出席できるものとしております。

A・Bの各30人、2チームを作り、隔週で受講することとしています。実際に来るのは、5回となります。1回あたりのタイムスケジュールは、英語を90分、休憩後、数学を90分行います。その時も、この30人を半分に分け各クラス15名で行っている状況です。専任講師1名・補助講師1名で行っております。また、保護者の意識・子どもの意識をより高めたいといったところで、参加費をいただくこととしました。委託先は、Z会エデュケーションネットワークをお願いすることとなりました。これは、イブニングスクールと同じ委託先ということで、スムーズに進めることができたかと捉えております。

応募状況につきましては、60名を想定しておりましたが、37名でスタートしております。イブニングスクールからの受講を呼び掛けたり、学校の先生を通して声かけを行いました。定員には達しませんでした。そのうちの16名がイブニングスクールからの受講、21名が新規での参加者となります。

簡単ではございますが、以上となります。

### ○星野市長

ありがとうございました。

説明員から、家庭学習応援事業、また中学3年生向けの受験対策講座について、それぞれ報告をお聞きいただきました。

委員の皆様からご意見を伺う前に、「家庭学習応援事業」について、資料の中で校長先生のご意見も掲載されていましたが、学校の立場から見て、どう捉えているのかということ、石井学校教育課長に伺いたいと思います。

### ○石井学校教育課長

私の方で聞いている情報をお話しさせていただきます。まず、サタデースクールについては、狙いとしている学習習慣の定着という部分で、この事業により身につけている子どもたちがいるという話を聞いております。また、子どもたちが他の学校の子たちと接する中で、友達の輪が広がっているという話を聞いております。校長先生からは、こういった環境があること自体ありがたいことだと伺っております。中学校のイブニングスクールについては、中学3年生ということもあり、受験に向けてという気持ちがあるため、大変意欲的に取り組んでいると伺っております。また、なかなか学習習慣が定着しない子にもありがたい場になっていると伺っております。

### ○星野市長

ありがとうございます。それでは、委員の皆様から、現在取り組んでいる事業の内容や今後の事業展開など率直なご意見を頂戴できればと思います。

### ○箕輪委員

資料①の1ページですが、教材費は中学生の場合、1教科のみの受講が可能ということでしたが、1教科のみでも教材費は1万円ということで変わらないということでしょうか。

○深迫生涯学習課長

1教科だと5,000円になります。

○箕輪委員

事業費ですが、参加費とは別にこれだけ掛かっている、市が負担しているということでしょうか。

○深迫生涯学習課長

そうです。

○箕輪委員

2ページですが、家庭学習応援事業の主目的である家庭学習の定着ということで、成果があがっている印象を強く受けました。令和元年度は、29パーセントから81パーセントまで大きく上がっていますが、特別な要因はあったのでしょうか。

○深迫生涯学習課長

特段なかったと考えておりますが、3か年やっている中で、教える側のスキルも上がっていると想定されます。また、参加しているお子さんたちがしっかりと事業に参加することで結果に結びついたと感じています。

○箕輪委員

3ページの見直し案①についてですが、5年生と6年生の2年間を継続するという前提で、申し込みを受け付けるということでしょうか。6年生のみは受けないということでしょうか。

○深迫生涯学習課長

それぞれ新規として募集を受け付けます。既に事業に参加している5年生の子たちにも呼び掛けながら、新規として迎える形を取ろうと考えています。

○箕輪委員

課題として、費用対効果の見直しということをお願いされていますが、費用は確かに掛かっているなど印象を受けますが、効果として家庭学習が定着しているというのは、大きいと感じています。あとは、授業も可能であれば、子どもたちの知的好奇心をもっと培っていけるように導いていただければと思います。

こういうことを、外部に委託することにより、学校の先生は負い目を感じたりはしないでしょうか。

○石井学校教育課長

特にそういった声は届いておりませんが、私も学校の先生ですので、先生の立場からすると、この講座の先生方に負けないようにやっていきたいという気持ちを持っております。そういった先生方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

○小野寺委員

私も教員の経験がありますが、その子に合った方法で、その子に必要な時間をかけて、上手に声掛けをしながら、授業をやっていけば、どんな子も必ず伸びると思いながら授業を行ってまいりました。しかし、現実的には、教える子たちの人数が多く、一人ひとりに接する時間が十分に取れないことや、1年間で教科書を終わらせなければならないといった進度の問題があったりなど、なかなか自分の思い通りに力を付けてあげられなかったなど、正直思

っています。一人ひとりの力を伸ばして卒業させるということは、学校の本来の目的だと思いますし、それに向けて学校の先生も一生懸命教えてくださっていると思います。ただ、現実問題としては、今言ったように、なかなかその通りにはいかない中で、市としてこういう授業をしていただき、学習習慣の定着、学力の向上といったところで、成果を出しているということは、本当にありがたいことだと思います。小学生の見直し案についても、この案の通り実施していただければ、子どもたちの力が身に付くのではないかと思います。

### ○渡部委員

私もサタデースクール、イブニングスクール事業は、「子育てするなら富士見市で」というフレーズとも、まさにマッチしており、とても良い事業だと思います。

何点かお聞きしたいのですが、イブニングスクールというのは、県立高校を受験する前提の子どもたちのためのものなのかということをお聞きしたいと思います。

2点目は、受験対策講座が募集60名に対し、37名しか集まらなかったのは、なぜだと思われるか。

3点目は、算数だけの事業になるということですが、私は、国語もとても大事な科目だと考えていて、算数も読解力がないと解けないような問題もあると思います。国語を外すのはどうなのかなと思います。

### ○深迫生涯学習課長

イブニングスクールについては、現在所管の生涯学習課としては、県立・私立ということではなく、家庭学習の定着ということを目指していますので、基本的に忠実なカリキュラムとしております。

### ○渡部委員

イブニングスクールについては、私立の確約を取ってしまうと、目的を達してしまい、もう行かなくてもいいのではないかなとも心配されますが、どのように考えますか。

### ○深迫生涯学習課長

なかなか強制することは難しいですが、主たる目的の家庭学習の定着、そして、最後までやり遂げることが大事であることをお伝えしております。

### ○石井学校教育課長

受験対策講座の人数が少なかった理由としては、事業の始まりが12月といったところで、既に塾に行っているといったことが考えられます。また、イブニングスクールから流れてくると想定した部分がありましたが、イブニングスクールが2月まで週2回やっていますので、土曜日が入ってくると、週3回になってしまうことから、重複する期間があり、イブニングスクールで最後まで頑張ろうという子が多かったと感じています。

### ○深井委員

私の子どもも、平成30年度にサタデースクールを受講させてもらいました。息子の勉強時間がとても増えたのでよかったと思っています。ほかに通っている保護者の方からの話によると、講師の先生によって、教え方にバラつきがあるといった話を聞きましたが、差があるのはしょうがないことだと思います。参加していない保護者の方からは、うちも参加すればよかったという声を多く聞きましたので、この事業は継続して欲しいと感じています。

見直し案の中で、渡部委員からもお話しがありましたが、1教科のみになるというのは、少々不安を感じます。国語は私も重要な科目だと考えておりますので、それも並行して実施して欲しいなと考えます。5・6年生を対象とすることは、嬉しいことだと思いますが、6年生を募集する際に、5年生で受講された人を優先的に受け付けるといったやり方はしないのでしょうか。

最後に、イブニングスクールと受験対策講座は、なにか違いがあるのでしょうか。大きな違いはないように感じますが、この2つの事業を最初から一緒にやっても良かったように感じます。

### ○深迫生涯学習課長

渡部委員からのご質問について、1点答えていなかった部分がありますが、深井委員と重複する部分がありますので、併せてお答えいたします。1教科に絞ることについては、一つは人数を増やすことを目的としており、会場の規模もありますので、教科を絞ることにより、人数を増やすことができると考えております。また、算数のみとした理由としては、やはり学校の先生からもつまずきということでは算数が多いとのことでしたので、算数を優先させていただきました。一つに絞ることは悪いことばかりでもなく、小学生はまだ遊びたい部分もあると思いますので、土曜日の午前中をすべて勉強に充てるとなると、集中力が持たないといったところもあります。教科を絞ることにより、時間が短縮されますので、集中力が持続するといったメリットも考えています。

深井委員のご質問の募集の仕方については、それぞれ新規として受け付けますので、2年連続で受講することも可能となります。

### ○深井委員

ふるいにかけて、落選することもあるということですよ。

### ○深迫生涯学習課長

できるだけ多くの皆さんに受けてもらいたいという考えもありますので、場合によっては、あると考えております。

### ○齊藤教育部長

受験対策講座については、コロナ禍が一番大きな理由となっています。3月から休業が続いた中で、中学校の校長先生と、学校は何が一番不安だろうかと話す中で、色々と学力等もありましたが、一番は高校受験に対して、子どもたちが安心して臨める環境が作れるだろうかということでした。その中でも、学校が一番心配なのは、受験の勉強のやり方がなかなか自分でうまくできない子どもたちを中心に、市の受験対策講座ということで、一緒に勉強して受験を乗り切ろうという場所があると安心するといったところで、事業提案をいたしました。イブニングスクールとの兼ね合いの心配もありましたが、しっかりと市として受験生を支援していくという目的で、今年度実施したものです。これを来年度も続けていくのかということとは、しっかりと検証する必要があると考えております。

### ○渡部委員

コロナの影響により、長期間休業となりましたが、子どもたちは授業に追いついているのでしょうか。

### ○齊藤教育部長

夏休みや冬休みを短縮し、必要があれば土曜日の授業にも取り組んでおります。年度中に、今年度の内容は終えるという目途が立っております。もちろん授業の中で精選しており、例年やっていることと全く一緒ということではありません。行事が少なくなったり、縮小したりしたところで、時間を生み出していますので、そういう中で、学校もしっかり工夫して取り組んでいる状況でございます。

### ○山口教育長

先ほど、学校の先生がどう捉えているかという話がありましたが、本来は学校で放課後、子どもが残って、授業で分からなかった部分を分かるまで教えるといった「補習」が学校で



できる体制であれば、それが望ましいと考えております。しかし、それを望んでしまうと、学校の先生は今でも十二分に働いてもらっているため、今の体制では難しい状況です。そのような状況を考慮して、市や教育委員会で補う方法を考えたのがこの事業です。自治体によっては、地域の方に手伝ってもらおうということで、学校応援団でやっているところもありますが、もっと安定的・専門的に子どもたちに力をつけてもらおうといったところで、お金をかけ民間の活力を活用して、しっかりと成果をあげたいと考えております。宿題を手伝ってあげるといったレベルではなく、しっかりと補習を行い、分からないところを分かるようにするという目的でこの事業を行っていますということを、校長先生方には説明してきました。対象者がまだまだ限られているという課題はありますが、想定よりも成果が出てきていると感じています。

もう一点成果としては、数年実施してきたことにより、イブニングスクールを経験し、中学校を卒業した子たちの兄弟が、上のお兄さんや、お姉さんの姿をみて、私もここで勉強したいという気持ちになったという話を聞いております。勉強に対する姿勢や物事に対する姿勢が変わって、充実した高校生活を送っているのを見て、私もそうなりたいと思ってくれたのは、数字以上の効果が出ていると感じています。もちろん全員がそうかということまではわかりませんが、学習に対して自信がつくということは、教育的に大きな意味があることだと感じております。

### ○星野市長

議論をいただきありがとうございます。私自身の意見を述べさせていただきたいと思えます。私の考えですが、子どもたちに学力を身に付けていただくということは、富士見市教育委員会及び市長としての責任だと考えております。富士見市の子どもたちに力をつけて卒業していただきたいというのは切なる願いでございます。全国学力テストや、埼玉県学力・学習状況調査については、県議会議員時代に検討会の委員長をしていましたので、その頃から関心の高い事柄でありました。市長となった今も、こうした、調査の結果などを、物差しは物差しとして使うべきだと考えております。我々ができる施策をしっかりと実施していくことが、子どもたちの学力の向上に結び付いてくということ、この事業を通して表したいと思っております。

一方で、様々なご意見もありまして、内部の議論の中では、一旦中断するといった話もありましたが、私としては、止めることなく継続をさせていただくことが大事だと考えておりました。そこで、来年度に向けて、深迫課長からありましたように、小学生については見直すなどの試行錯誤をしながら取り組んでまいりたいと考えております。私としては、事業を継続し、子どもたちの家庭学習の応援をしていくという本来の目的を果たしてまいりたいと考えております。

費用対効果については、公金を使用させていただく訳ですので、厳しい目があることは事実であります。しかしながら、当初の目的を達成するためには継続をし、試行錯誤をしながら、より良い充実した事業にしてまいりたいと考えております。皆さまからいただいたご意見を今後の事業展開に活かして参りたいと思えます。

続きまして、(2) コロナ禍での学校における子どもたちの様子について、議題とさせていただきます。

冒頭でも話をさせていただいたとおり、富士見市ではかなりの急カーブで感染者数が増えている状況です。感染者の年齢別・性別の分析などをさせていただきましたが、富士見市におきましては、3月から10月にかけては、10代から20代、また40代の感染者数が多い状況でしたが、11月以降に関しては、さらに70代の感染者数が一番多くなっているという状況です。男女の陽性者数については、ほぼ同数でございます。感染経路については、陽性者との接触、家族間での感染というのが、11月以降増えてきております。

12月1日から、富士見市民の65歳以上の高齢者の皆さん、または、65歳未満で基礎疾患をお持ちの方で、新型コロナウイルス感染症の不安がある方を対象に、お一人3千円でPCR検査を受けられる事業を開始いたしました。また、昨年末に近隣でPCR検査を行って

いる埼玉県指定診療・検査医療機関の指定病院の院長と話をさせていただく中で、大変印象的だったのが、「3密の解消・マスクの着用・換気などの基本が日本人はしっかりと対策が取れている。大勢の皆さんがマスクをしっかりと付けているというのは、ワクチン接種に匹敵する効果がある」とおっしゃっておられました。やはり基礎基本がしっかりと徹底できるというのは、感染者数に大きく影響するということでした。

それでは、11月に入ってからの学校での子どもたちの様子などについて、学校教育課長より、ご報告をいただきたいと思います。

### ○石井学校教育課長

現在、市内の小・中・特別支援学校では、9件の陽性者が確認されています。7月に1件、9月に2件、11月に3件、12月は今現在で3件ということで、市長がおっしゃられたように、学校でも感染者数が増加している状況でございます。陽性になった児童・生徒は、保健所からの指示により、2週間ほど自宅待機しております。復帰してからの、いじめ・いやがらせというのは無いと伺っております。先日、ある学校に陽性者の子の状況を聞いたところ、自分が陽性になったことで、友達が濃厚接触者になってしまって申し訳なかったという思いを持っているとの話を聞きました。陽性になった子どもへの心の支援というのは、十分気を配っていかねばならないと考えております。

また、ある陽性者が確認された学校において、保健所から「学校での対応が素晴らしい、ほぼ完璧だ」というお話をいただきました。各学校でしっかりと対策に取り組んでいただき、徹底されていることから、かなりの確率で濃厚接触を防げていると感じております。

子どもたちの様子については、コロナ禍での生活も何か月も過ぎてきましたので、新しい生活様式に対応するための学校生活にも慣れてきているといった話を伺っております。また、林間学校や修学旅行などの行事につきましても、学校がしっかり保護者の方から話を聞きながら進めている中で、全くの中止ということではなく、縮小した形で実施することにより、子どもたちもモチベーションを維持して過ごしていると聞いています。

課題としましては、最初の頃よりは、新しい生活様式にも慣れてきた面もあり、落ち着いてきた様子ではありますが、体力の低下・体重の増加・虫歯の増加などの健康面での課題が見られてきています。議会でもご指摘がありましたが、ゲームやスマホ等の時間が増えており、外で遊ぶ時間が減っている状況があります。家庭の中でしっかりとルールを決めて取り組んでいただかないと、生活習慣が乱れしまい、学校に来ても疲れた様子が見受けられてしまうということです。

続きまして、職員の様子についてですが、スクール・サポート・スタッフや学習支援員の増加などにより、先生たちも助かっているという話を伺っております。また、教職員の中でも、疲れが見られ、体調を崩す者もあったということも聞いておりますが、一方で、行事の縮小などにより、職員の負担が減っている面もあるとのことでございます。職員も新しい生活様式に慣れてきた部分もありますが、年休の取得という部分では、休業が長期間にわたったことから、なかなか取れないという状況も聞いております。

授業については、だいぶ通常に戻り、学校教育活動が進められているところではございますが、感染防止対策が続いていることから、話し合う活動や調理活動などは今も制限し、合唱等もフェイスシールドを付けるなどの工夫を行いながら、教育活動に取り組んでいる状況でございます。

### ○星野市長

ありがとうございます。それでは、委員の皆様から、何かご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

### ○小野寺教育委員

報道によりますと、不登校の子どもが増えてきたという報道もありますし、逆に減っているという報道もあります。富士見市ではどちらでしょうか。また、その要因はどのように捉

えていますか。

#### ○石井学校教育課長

相談等も含めて、若干増えている傾向にあると聞いております。生活習慣の乱れや、家庭内のストレス等が考えられています。

#### ○箕輪委員

感染が怖いから、学校に行かないといった子どもたちはいらっしゃいますか。

#### ○石井学校教育課長

最近でも若干いらっしゃいますが、以前と比較すると減ってきております。不安面が和らいできているといったところで、考え方も変わってきているとの印象を受けています。

#### ○星野市長

ありがとうございます。私としても大変関心が高い事柄であります。

現在、我々市長部局として、来年度の当初予算の編成をしているところでございます。各局面で情勢も変わっていますが、国としても第3次補正を予定しているところでございますので、こうしたものを踏まえて、各分野において、しっかりと必要な予算的処置を検討してまいりたいと思います。

それでは、3つ目の議題「教育大綱の見直しの検討について」について、事務局より説明をお願いいたします。

#### ○森園秘書広報課長

資料の③をご覧ください。平成29年に教育大綱を策定いたしました。策定時から変わっている委員の皆様もいらっしゃるから、簡単に経過を説明させていただきます。

平成27年に大きな法律改正があり、教育長の職務・任命や任期に関することや、地方公共団体の長がこの総合教育会議の開催などが明記されました。この中で、地方公共団体の長は、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について、この総合教育会議において定めることとなりました。検討を重ね策定した、富士見市の教育大綱が資料③の2枚目となります。策定にあたっては、第2次富士見市教育振興基本計画が平成30年度から始まるということで、外部の先生を招き、勉強会などを開催して、総合教育会議の場で議論を重ね教育大綱を策定しました。

市の最上位計画である第5次基本構想が来年の3月で終わり、第6次基本構想が来年の4月から始まります。「誰もが充実した日々」を過ごせるようなまちづくりをするという将来都市像を描いたものになります。また、5年間の第1期基本計画も、併せて来年の4月からスタートすることになります。

教育大綱につきましては、基本理念と基本方針から成り立っています。基本理念については、第5次基本構想・後期基本計画に盛り込まれた教育分野の内容を踏まえながら、本市が目指すべき教育の根源である「いのち」の尊さや人間尊重といった普遍的な理念を示しました。基本理念では、理念的なものなので、すぐに変更することは想定されないことから、期限は設けてはおりません。教育大綱の3つの基本方針については、教育委員会で定めている第2次富士見市教育振興基本計画と連動をしながら定めたものでございます。

第5次基本構想・後期基本計画と新しくスタートする第6次基本構想・第1期基本計画については、大きな柱は基本的に変わりません。教育大綱の基本方針に、「人づくり」「学校・家庭・地域の連携」「教育環境の充実」と定めておりますが、富士見市教育振興基本計画で謳っている内容であり、この内容は、第6次基本構想にも引継いでいることから、この時点で定めております教育大綱の基本方針については、変更する必要はないと事務局としては考えているところでございます。簡単ではございますが、以上です。

## ○星野市長

法律改正により、市長がこの総合教育会議を招集できることになり、教育委員の皆様と意見交換をできるようになり、また、教育大綱をつくるということもできるようになりました。山口教育長とともに、学校教育・地域の生涯学習教育等を充実していくためには、教育大綱によって方針を示し、富士見市の教育の発展・充実を目指すということで、この大綱を策定させていただきました。事務局から説明あったとおり、基本理念については、我々が目指す、欠けてはならない普遍的なものを示しており、基本方針についても、現時点では、現教育大綱を継続し、見直し時期についてはもう少し先にするというを事務局より説明させていただきました。委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。

## ○簗輪委員

今言われたように、基本理念については、それだけの重さがあるものと捉えていますので、変える必要が無いと考えております。よく教育は100年の計と言われますが、そのスパンで考えると、戦後教育70数年が経過し、あと20数年は、この大枠で行くのではないかとの思いがあります。教育の3本柱「知・徳・体」の観点からみると、「徳」・「体」は戦前から変わらないのかなという印象を受けております。しかしながら、「知」については、その時々的情勢によって変わっています。新しい学習指導要領が今年小学校で実施され、中学校も来年から実施されます。特にICTに関しては、昨年・今年になり、歴史が転換する程の急激な変化があったと認識しております。そうした時に、基本方針の3. 教育環境の充実に関しては、ICTの関係も含めてどうしていくかというのは、一度議論をしてもよいのではと考えます。

## ○小野寺委員

何回か読み直し、どこか変えたほうがよいところはあるかということを確認しましたが、現在のところ、このままでよいのではないかと考えています。ICTの関係はもちろんのこと、芸術・スポーツなども組織が再編される中で、変えたほうがよいのかどうかと考えましたが、市の大綱なので、大枠としては十分ではないかと思えます。

## ○山口教育長

一点目は、市長への報告になりますが、前段の教育委員会会議の中で、第6次基本構想スタートするというので、特にスポーツが教育委員会から市長部局に移管となることから、教育振興基本計画を見直す必要があるかということも議論させていただきました。結論としては、部局が移ったとしても、教育としてのスポーツについては継続なので、ここでは変更しないこととなりました。

2点目としては、教育大綱の基本理念・基本方針については、富士見市の教育として大事にしたいところで、大きく変わっていくものではないと理解しております。基本方針の下の具体的な施策の話になってきたときには、今後益々ICTの活用などの見直しが必要になってまいります。大綱や教育振興基本計画については、ここで見直す必要はないと考えております。

## ○渡部委員

基本理念については、教育長がおっしゃったように、富士見市の基本理念として、大事にしたいところだと考えますので、私としても、このままでよいと思います。

## ○深井委員

子どもたちが健やかに成長されることを、市が願っていることがよく伝わってきますので、私もこのままでよいと思います。

### ○星野市長

箕輪委員や山口教育長から話があったように、基本方針や、教育振興基本計画、また、それに伴う施策などは、時代の変遷に併せて今後整理していかなければならないと思っております。私としても、同様の意見を持っております。今日の時点では、教育大綱につきましては、変更しないということで概ねご了解をいただきましたので、今後も現在の教育大綱を継続して進めさせていただきます。ただし、方針等については、今後数年のうちに、指摘をしていただいた部分も含めて、変更を加えていくということで、よろしいでしょうか。

### ○委員

異議なし

### ○星野市長

ありがとうございます。それでは、本日3点について、ご議論をいただきましてありがとうございました。家庭学習応援事業については、今後もしっかり進めさせたいと考えておりますので、今後ご指導の程よろしく願いいたします。他に何かありますでしょうか。

### ○箕輪委員

総合教育会議については年度、教育委員会については、年で回数を数えていますので、どちらか統一したほうが理解しやすいのではないのでしょうか。

### ○森園秘書広報課長

制度自体の開始が、平成27年の4月からという年度で始まったことが一つの要因だと考えられます。また、この総合教育会議の運用として、1学期に1回、年3回行っていることから、年度毎に回数を数えています。

### ○星野市長

それでは、長時間にわたり議論をいただきありがとうございました。本日の会議を終了いたします。